

2019年7月26日

2019年度 学校関係者評価報告書

学校法人大原学園
福井ペット&旅行ホテル専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人大原学園福井ペット&旅行ホテル専門学校関係者評価委員会は、平成30年度自己点検・評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下のとおり報告致します。

1. 実施日

2019年7月26日

2. 学校関係者評価委員

酒井 和博 (さかい動物病院)
飯岡 正明 (株式会社 日本旅行ツアーリスト)
(事務局)
赤星 哲志 (大原学園福井校 校長)
小倉 豪円 (大原学園福井校 副校長)
川上 浩司 (大原学園福井校 副校長 兼 教務部長)
山内 博樹 (大原学園福井校教務部 課長)
成田 裕行 (大原学園福井校教務部 課長)
齋藤 大 (大原学園福井校教務部 課長補佐)
玉木 千春 (大原学園福井校教務部 課長補佐)
中野 成一 (大原学園福井校教務部 課長補佐)

3. 平成30年度 自己点検・評価の概要

平成30年度における福井ペット&旅行ホテル専門学校の自己点検・評価についても、継続的に良好な結果であった。

特に学校運営に関しては、伝統的に統一的な意思決定システムが確立されていることもあり、円滑で安定的な学校運営が行なわれた。また、地域特性を織り込みながら、一人一人の人材育成を重視してきた為、有為な人材輩出が継続的に行えているといえる。

引き続き、重点課題を「幸せな就職と実社会での即戦力となる人材育成教育をテーマとした就職教育の一層の充実」「資格取得率の向上」「卒業後の再教育プログラムの開発」「学生の地域活動やボランティア活動を通じた社会性の向上」の4点を挙げ、更なる改善に取り組んできた。

まず、30年度も継続して高い内定率（民間企業 100%）を達成することが出来ている。教育課程編成委員からの提言を反映した実践的な授業への改善等も行われ、学生の特性に合った進路に進んでいる。また、動物看護師統一認定試験やトリマーライセンス等の資格取得の実績においても、本校では引き続き高い合格率を維持している。更に、ボランティア活動への積極的な参加や周辺住民の方々から、毎週モデル犬のご提供を頂く機会を設ける等、多くの社会性を学んで来た。

また、ホテル旅行関係においては職場体験、見学などの機会を通じ、知識を実務へ連携できる教育環境を意識し、対応を進めている。それらを通じ、資格合格へのモチベーション、知識収集力の向上に結び付けている。その他にも、継続して幅広い年齢層に対する教育サービスを提供し、様々な附帯教育事業も含め教育における充実した社会貢献を果たし、これらの実績に信頼を寄せて頂だける総合的な教育サービスを提供したいと考えている。

最後に、学校運営としては予算計画・執行は規定に従って適正に行なわれており、財務状況も安定している。

4. 2019年度 重点目標1

「幸せな就職と実社会での即戦力となる人材育成教育」をテーマとした就職教育の一層の充実

<現状・達成指標>

今年度も継続して内定率は十分な成果を上げることが出来ている。また内定率以外にも、本人の特性を把握し、適切な進路指導を実施することで、希望の就職先へ内定出来る様に指導し、内定後調査でも高い満足度の維持を達成できるように努める。

<具体的方策>

1年次より就職教育と現場実習を実施することで、年々低下している学生の社会常識等を早めに身に付けさせることで高い内定率を維持している。

昨今の就職協定の変化により採用方法等に不確定要素があるが、動物系はもともと求

人が遅いため大きな影響はないと考えている。

継続的に「幸せな就職と実社会での即戦力となる人材育成教育」実現に取り組む。

<学校関係者評価委員からの提言>

現在、ペットショップ、動物病院などでは多くの大原卒業生が活躍している。継続して今後の卒業生にも期待している。

動物関連業界、専門性の高い企業では、専門知識・技術の習得を要求されるので、継続して社会ニーズの高い付帯教育を提供して欲しい。

学生は学校生活を通じて自分の長所を理解し、また教員の適切な指導がなされていることが分かった。

本人の特性を生かせる教育、資格取得を選択させることで幅広く活躍できる人材を輩出して欲しい。

学生の社会常識力の低下に対応した教育内容を確立し継続して社会貢献を果たしてほしい。

5. 2019年度 重点目標 2

資格取得率の向上

<現状・達成指標>

資格取得実績は安定的に維持出来ている。尚、資格取得者を多く輩出するため教員が常に最新の知識と高い指導力を維持するため、組織的な教育研修等の環境整備を行なう。

<具体的方策>

実務においては企業等と連携し組織的に教員研修を実施継続する。

近年、難易度の上昇など、検定環境の変化する資格も増加しているが、より多くの資格取得者輩出のためカリキュラムや指導方法の研究検討会を継続して実施する。

<学校関係者評価委員からの提言>

①単なる資格取得が目的でなく、社会で即戦力となる資格を厳選し、取得させる過程の中で必要とするスキルを身に付けて欲しい。

②資格取得にのみ傾倒した資格取得教育ではなく、実務活用できる知識を前提とした教育を実施して欲しい。

③資格や試験対策は、実社会で使える訓練の場である事を意識し、目的が資格合格や点数だけにならないようお願いしたい。

6. 2019年度 重点目標 3

卒業生への支援体制強化

<現状・達成指標>

学び直し等のニーズに対して様々な付帯教育を提供し支援を行っている。卒業生の活躍の場を更に広げるため、社会ニーズの高い再教育プログラムを開発提供する。

<具体的方策>

技術向上のために卒業生に対し、実習室の開放などを行っている。

また、社会ニーズについて関連施設等から定期的な情報収集を収集し、より効果の高いプログラムを開発する。

教育訓練給付金制度の認可を申請し、希望者が学習しやすい、環境を提供する。

<学校関係者評価委員からの提言>

①業界内では、複数の専門知識習得を要求される環境が増加しており、継続して社会ニーズの高い付帯教育を提供して欲しい。

②毎年多数の卒業生を輩出している学校として、卒業生支援の充実は不可欠と思われる。

③年々学び直しのニーズが高まっており、若者のみならず年配者にも学習しやすい環境などを、是非検討して頂きたい。

④卒業した先輩とも継続して繋がりを維持し、学生の指導にも卒業生からアドバイスなど頂ける機会を設けると良い。

7. 2019年度 重点目標4

地域活動やボランティア活動を通じた社会性の向上

<現状・達成指標>

積極的にボランティア活動に参加し、社会性を学ぶ時間を多く確保している。特に地域との関係を密にし、信頼の構築を図りたい。

<具体的方策>

地域内でのイベントや行事の運営に積極的に参加し、様々な人々と接し、実感として社会性を学んでいく。

<学校関係者評価委員からの提言>

①イベントや行事の期間だけに留まらず、定期的または継続的に様々な人と接して欲しい。

②ペット科では、ペットに関わる大変さと同じ位、その飼い主に対してコミュニケーションや旅行ホテル科では、現場体験によるお客様とのコミュニケーションを取っていくことが重要である。そのバランスを是非、学んで欲しい。また

8. 学校評価全体に対する評価

自己評価結果については、適正であると評価する。

福井ペット&旅行ホテル専門学校の教育成果、学生指導及び学校運営への取組み等について、実務的な視点から検証を行ったが、自己評価結果は妥当であると評価できる。

現状として、学生及び保護者はもちろんのこと、学生を採用する事業所においても、継続して良い教育を提供できていると思われる。

今後も、専門性が高く社会で即戦力となる人材育成を担うことに変わりはないが、社会が専門学校に求める知識・技能教育の内容および学生の社会への適応能力は変化していくため、現在の状況に満足せず、常に良い教育が提供できるよう取り組んで欲しい。

今年度も継続して、重点課題を4点に絞り込んで改善に取り組んでいることに関して、総じて良いと思うが、社会の変化等に臨機応変に対応できる専門学校の強みを更に活かす為にも、4点の重点課題以外にも積極的に解決する姿勢を維持して欲しい。

9. 学校関係者委員会総括

学生の「幸せな就職」を教育テーマに掲げて、教職員全員が一丸となって学校運営・教育活動に取り組んでいる。2年間の修業年限の中で、社会で即戦力となる知識技能や社会性を向上させる教育が提供されていると思う。学校生活においては、担任制により一人一人の学生に対して、きめ細かな指導を基本方針とした上で、行事等を効果的に活用し、教員と学生の信頼関係が強いことが当校の特徴である。その結果、素晴らしい教育成果を挙げている原点であろうと推察される。また、実習指導や就職対策を多く行う中、学習相談や実習相談は勿論のこと、日々の生活における悩みなども教員と共有し、解決しながら、学生が成長していく姿が想像できる。

現在の教育内容にも学生の社会性向上に向けた教育が多く含まれているが、特にコミュニケーション能力の低下等に対しては、教育プログラムを適宜、改訂することが重要と思われるので、重点課題の改善に向けた取組みの中でさらに反映させて欲しい。

今後も学校関係者一同、客観的な視点から様々な提言を投げかけることにより、福井ペット&旅行ホテル専門学校が社会の信頼を益々得られるようにサポートして行きたいと思う。